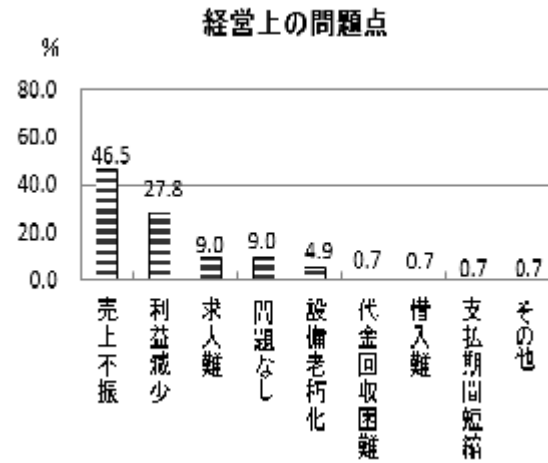
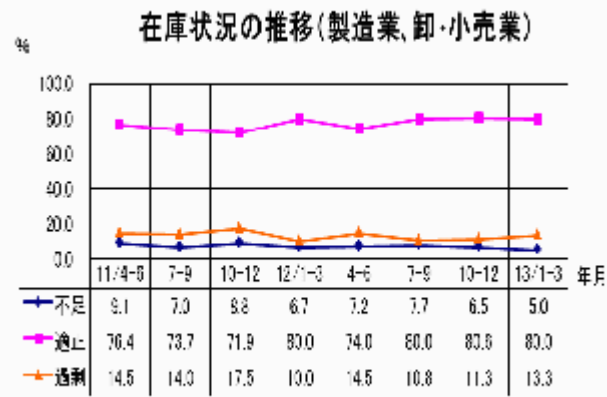


村上市景況調査報告

平成25年1～3月期の実績と平成25年4～6月期の見通し



調査時期：2013年3月中旬～2013年4月上旬

調査対象：村上市内事業所 200社 有効回答数 145社 (回収率72.5%)

〔業種別内訳〕 卸売・小売業64社、建設業41社、製造業28社、飲食店・宿泊業20社、サービス業47社
〔地区別内訳〕 村上地区103社、荒川地区33社、神林地区21社、朝日地区20社、山北地区23社

実施機関：村上市商工観光課

村上商工会議所、荒川商工会、神林商工会、朝日商工会、山北商工会

分析機関：村上商工会議所

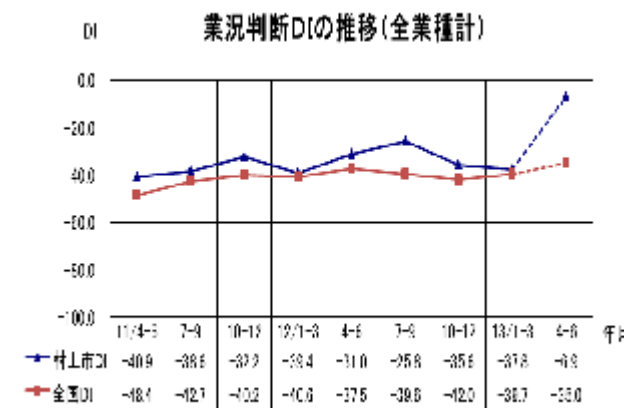
全国状況：全国中小企業動向調査結果【小企業編】(2013.1～3実績、2013.4～6見通し)

日本政策金融公庫 総合研究所

DI = 「良い」企業割合 - 「悪い」企業割合 (売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。)

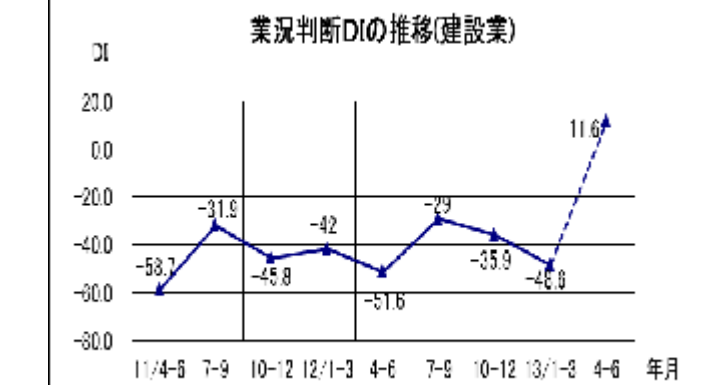
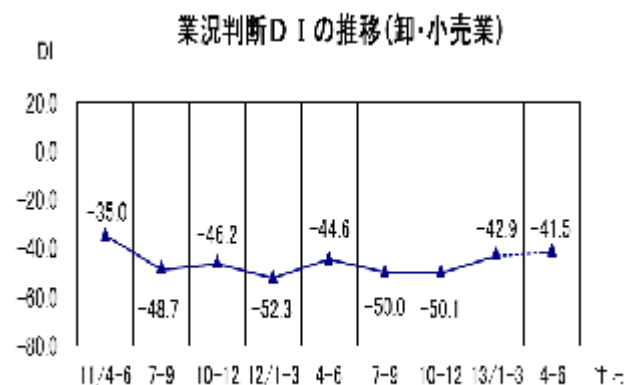
「弱い動きだが、来期のマインド改善は高く」

村上市の業況

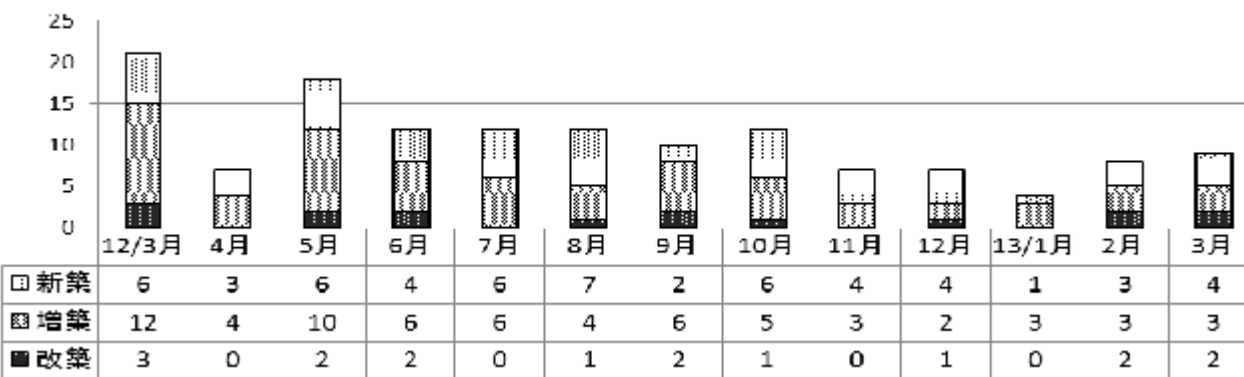


今期(13/1～3月期)の業況判断DI(全業種計)は、前期(12/10～12月期)に比べて2.2ポイント低下し37.8となり、2期連続の低下となった。しかし、前期における今期予測(38.5)よりも、0.7ポイント上回っており、前年同期比でも1.6ポイント上回っている。今期DIが低下した要因は、建設、製造、飲食・宿泊の3業種でDIが低下したため。

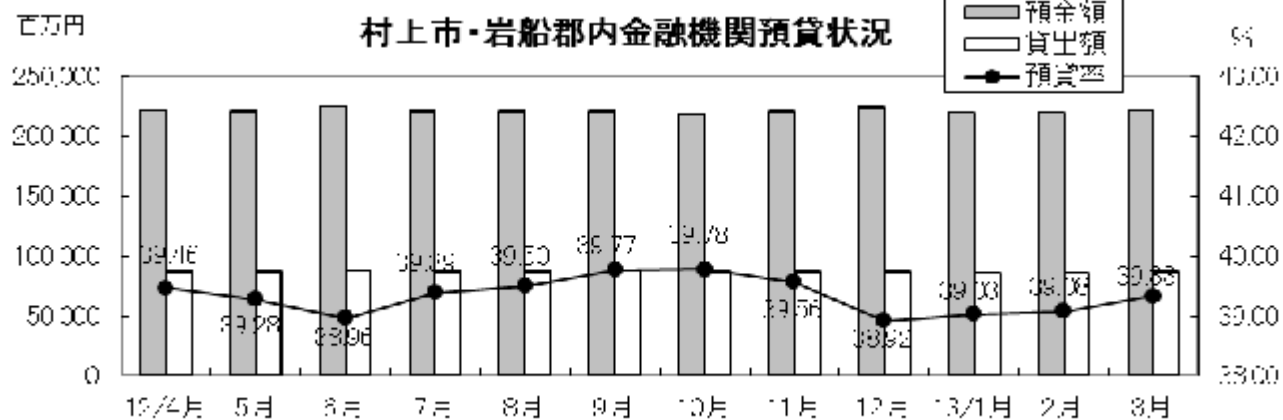
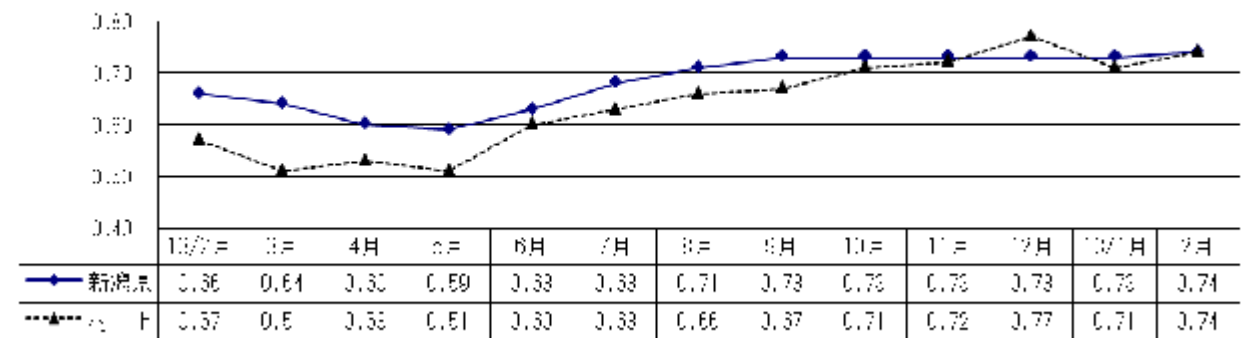
来期(13/4～6月期)については、DIが30.9ポイントの急上昇で、6.9となる見通しである。DIの上昇は全業種で予測しており、中でも今期DIが低下した3業種が、鰻上りの改善を見通している。ただ、円安に伴う原材料価格の上昇や電気料金の値上げ等のコスト増が、価格転嫁に繋がらないなど、企業収益に影響を落とす懸念がある。

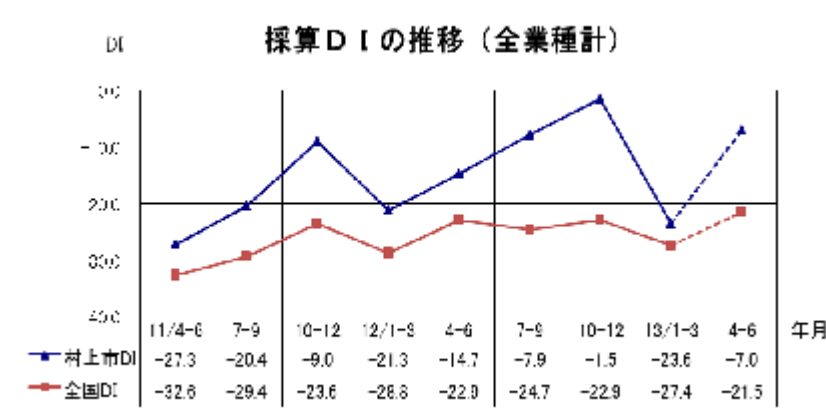
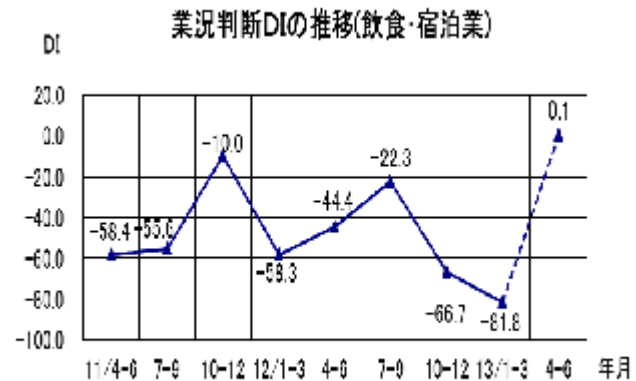
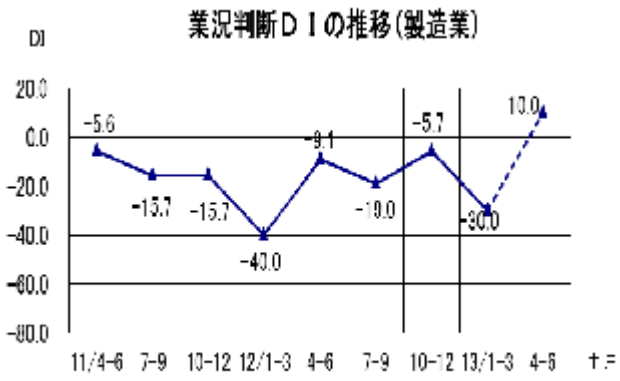


建築確認申請件数



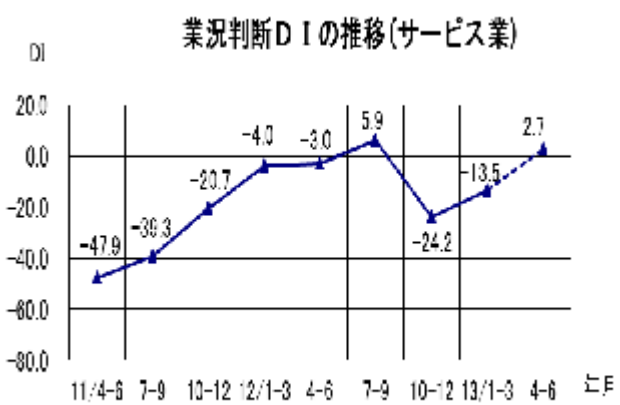
村上職安管内有効求人倍率(パート除く常用)



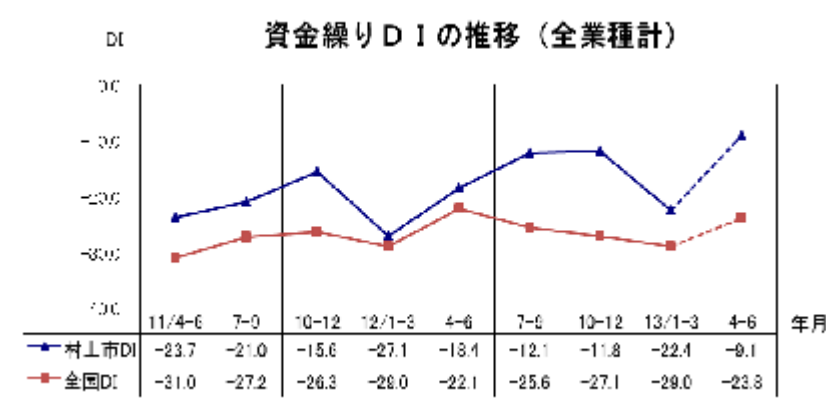


今期の採算DI(全業種計)は、前期比22.1ポイントの大幅低下で23.6となり、低下は4期振り。ただ、前期における今期予測より2.3ポイント上回った。全国DIは前期比4.5ポイント低下し、27.4となり、7期連続で前年同期実績を上回っている。

来期については、16.6ポイントの大幅上昇で7.0となる見通し。これが実現すれば、調査開始以来3番目に高い水準となる。全国DIも5.9ポイント上昇し、21.5となる見通しである。

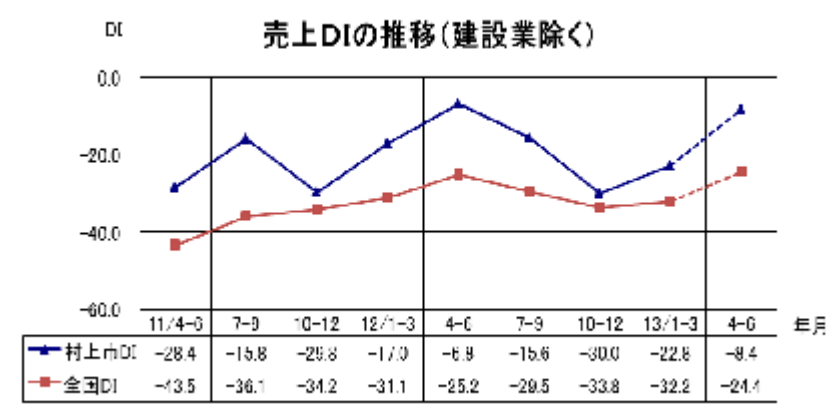


今期の業種別業況判断DIは、卸・小売業が経費削減や入札参加など自助努力等で7.2ポイント、サービス業も自然増や明るい見通し等で10.7ポイント上昇した。建設業は受注不振や採算悪化等で12.7ポイント、製造業は原料価格や燃料費の上昇等で24.3ポイント、飲食・宿泊業は需要減退の季節的要因等で15.1ポイント、それぞれ低下した。来期については、DIが全業種で上昇する見通しで、それを裏付ける各業種の主なコメント(要旨)は、卸・小売業では「競合店の減少、今後の売上増に期待」、建設業では「補正予算に伴う受注増、消費税増税前の需要拡大」、製造業では「住宅や自動車関連の回復による受注増」、サービス業では「景況感の上昇で物が動く」など。飲食・宿泊業は「需要期、震災前に復調」と推測される。

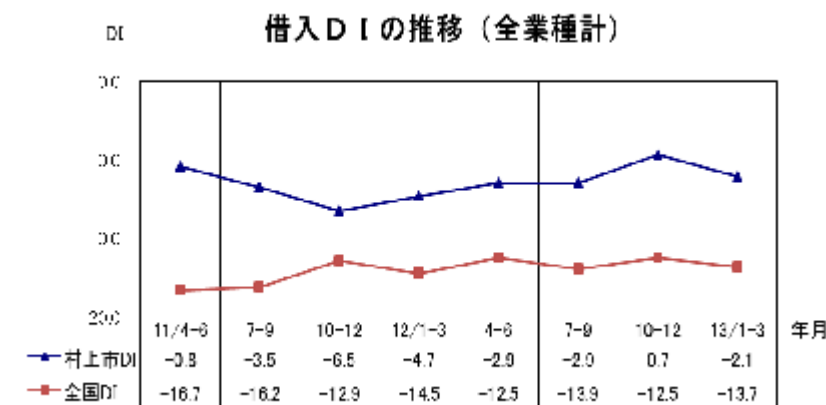


今期の資金繰りDI(全業種計)は、前期に比べ10.6ポイント低下し、22.4となり、低下は4期振り。ただ、前期における今期予測より11.4ポイント上回った。全国DIは前期比1.9ポイント低下し、29.0となり、3期連続の低下。

来期については、13.3ポイントの上昇で9.1となる見通し。全国DIも5.2ポイント上昇し、23.8となる見通しである。

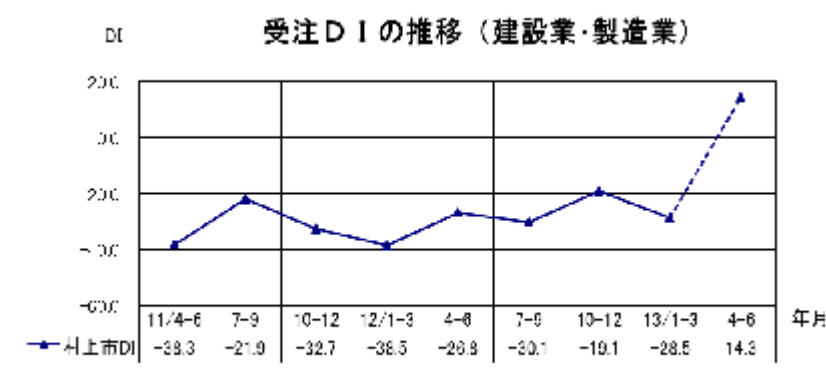


今期の売上DI(建設業除く)は、前期比7.2ポイント上昇の22.8となり、前期における今期予測より9.2ポイント上回った。上昇は3期振り。全国DIも、前期比1.6ポイント上昇し32.2となり、3期振りの上昇となった。来期については、更に14.4ポイント上昇し8.4となる見通しで、実現すれば、調査開始(08/4~6月期)以来、12/4~6月期の6.8に次ぐ水準となる。全国DIも、更に7.8ポイント上昇する見通しである。

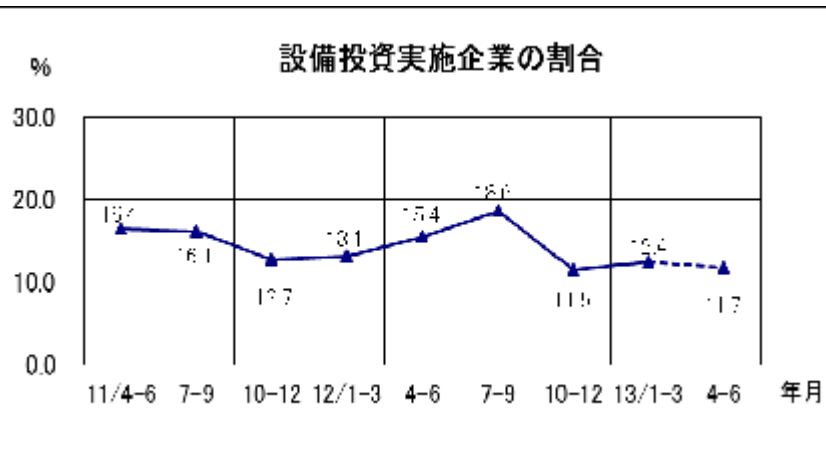


今期の借入DI(全業種計)は、前期に比べ2.8ポイント低下し、2.1となった。低下は5期振り。

内訳は以下の通り
「容易になった」
前期 5.4% 今期 4.2%
「変わらない」
前期 41.1% 今期 47.8%
「難しくなった」
前期 4.7% 今期 6.3%



今期の受注DI(建設・製造業)は、前期比9.4ポイント低下し28.5となり、前期における今期予測より、13.2ポイント上回った。DI内訳 前期 今期
建設業 27.6 31.4
製造業 5.9 20.0
来期については、42.8ポイントの大幅上昇で+14.3となる見通しである。DI内訳 今期 来期
建設業 31.4 +11.4
製造業 20.0 +25.0



全業種における今期に設備投資した企業の割合は、前期比0.9ポイント上昇し、12.4%となった。

来期に設備投資を予定している企業の割合は、0.7ポイント低下し11.7%となる見通しで、調査開始以来、3番目に低い水準となりそうだ。